

新緑と五月模様

市長 明智忠直



この4年余り、毎日散歩を欠かさず行っています。間もなく梅雨を迎えますが、季節の中ではやはり5月が一番爽やかな、心地よい季節だなと感じています。歩きながら周りを見ると、青葉や若葉の新緑が日一日と色濃くなり、水田の青さと水面の光とのコントラストが、素晴らしい田園風景をつくってくれます。そして、顔を渡る風も柔らかく伝ってきて、すがすがしい自然の美しさや優しさを味わえます。そんな気分になりながら、今日も一日が安全・安心でありますようにと願い、散歩の締めくくりに神社をお参りするという日課を続けています。

散歩は、日ごろの健康管理とウォーキングブームがきっかけで始めました。散歩は全身の筋肉をしっかり使うため、関節や筋肉の強化が行われ、心肺機能の向上などにも効果があるそうです。これからも健康維持のため、継続していきたいと思っています。

5月と言えば田植えの季節でもありました。昔なら「猫の手も借りた

い」といわれる農繁期。一家総出の作業や早乙女のかすりのもんぺ姿など、思い出すと本当に情緒もありました。私が小さいころによく歌われた田植えの歌にもある田園風景を懐かしく、歩きながら思いを巡らしております。

しかし、時代は本当に進化したんだと感じさせられます。この時期、水田を見渡しても大型田植え機が2、3台見られる程度。5～7日間くらいで全ての水田に苗が植え付けられ、田植えの時期は終わります。農家同士が互いに声を掛け合う機会も、人だかりも少なくなった今、農業の中では米作りが一番に省力化されたのかなと、あらためて感じているとともに、少し寂しさも覚えるところでもあります。

このように今の時期、緑に包まれ、自然の美しさを感じながらあぜ道を歩いていると、その田園の持つ魅力がずっと保たれてほしいと願います。そこは人々の心と体を癒し、忙しさから開放してくれる大切な時間と空間だから――。